

## 記載例

## 事業計画書

団体名：〇〇〇〇の会

事業名 <u>国際交流ファン・ファン・デイ</u>	
事業の種類（該当するものに○） <u>1 国際交流</u> 2 国際協力 3 国際理解 4 多文化共生	
事業対象者： 〇〇町民どなたでも 参加見込人数 20人（うち外国籍者数5人） 会員以外の秋田県民の参加（ <u>可</u> ・不可） 可の場合、周知方法：チラシ配布・HP掲載	
事業を企画した動機・目的（事業を企画するに至った問題意識）  最近町内で海外出身の方を多く見かけるようになってきたが、なかなか交流する機会がない。一度、話す機会があれば、町で出会ったときに、挨拶したり、災害時に一緒に避難出来たりするのではないかと思い、交流会を企画した。 町内在住の海外出身の方を講師に招いて出身国の文化紹介をしてもらい（個人、グループどちらでも可）、お返しとして、〇〇町の文化紹介を町内の小中学生にってもらう。 異文化を理解して、交流を深めることを目的として実施する。	
事業内容	事業日程・行程
<ul style="list-style-type: none"> <li>町内在住の海外出身の方で文化紹介を引き受けてくれる個人やグループと、文化紹介の方法を相談して、発表方法やイベント当日集まった人に配布する資料を一緒に作成する。</li> <li>町内の小中学生で町の文化紹介をしてくれる個人やグループには、発表方法や当日配布する資料の作成をアドバイスする。</li> <li>町内の公民館で発表会を開く。</li> </ul>	<p>6月 企画会議</p> <p>7月 講師決定、イベントチラシの作成 イベント参加者の募集 文化紹介発表用のプレゼン資料、配布資料の作成、発表動画の撮影</p> <p>8月 夏休み中にイベントを開催する 会場集客の他、ZOOM参加も募り、新型コロナウイルスの感染拡大があった場合は、オンライン開催とする</p>
成果目標  交流会を実施することで、お互いの国の文化や習慣の違いを認識し、その違いを尊重することによって、多文化共生を推進する。 町内への移住者も増えているところから、海外出身者のみならず、移住者が町の文化や歴史を知る機会にもなりうるので、周知しながら継続的にイベントを開いていきたい。	

※この用紙1枚で概略が分かるように書いてください。